

◇初の商船高専5校合同開催、約200名が参集
=全船協、横浜港カッターレース後に懇親会=



全船協 酒迎会長

全日本船舶職員協会(全船協)は26日、横浜市中区で行われた横浜港カッターレース後に合同懇親会を開催した。例年は5商船系高専個別で行われていたレース後の懇親会を今年は5校合同で行い、約200名が参集した。酒迎和成会長は「多くの方に参加してもらい、感謝している。昭和5年に全国商船学校十一会、昭和44年に全船協が設立して以来、初めて5校合同の懇親会を行う。旧交を深め、親睦を深めてほしい」と挨拶した。

会長挨拶の後、満80歳まで会費納入期限が完了した名誉会員の片山清氏を表彰。続いて来賓の赤池誠章参議院議員と国土交通省海事局の水嶋智局長が挨拶した。赤池議員は「自民党の中で商船高専定員の絶対堅持、海洋国家にふさわしい人材育成に向け、旗を振っている。学習指導要領改正では海事



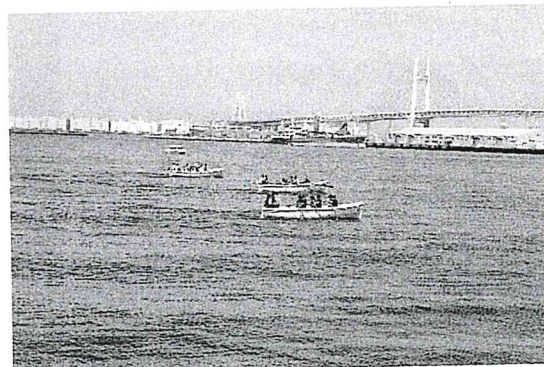
水嶋局長

産業に関する記述が明記され、来年から新しい教科書が採用される。海洋国家の中核は商船高専。商船高専卒業生や海洋少年団とともに海洋国家を盛り上げていく」と海洋国家の繁栄に向けた決意を表明した。

水嶋局長は「本日は初めて5校集まったの懇親会となった。皆さんの後輩も頑張っている。ここ3年間、商船高専の卒業生の海上就職率は8割を超え、卒業生の6割が内航船に乗船している。内航船は大型化と船員の高齢化が進んでいる。赤池先生の尽力により、学習指導要領改正では海事産業に関する記述が行われ、新しい教科書には海運や船員、造船のことが盛り込まれるようになった。海洋教育セミナーや海の仕事に関するQRコード付のパンフレットの作成も行った。若い人に商船高専に入学してもらいたい。私自身も今日はカッターレースに出場してきた。



赤池議員



横浜港カッターレース

皆さんとお話できるのを楽しみにしている」と挨拶した。その後日本丸記念財団の金近忠彦会長が乾杯の音頭を取り、参加者は親睦を深めた。

横浜港カッターレースでは、一般の部に164チーム、女子の部に20チーム、シニアの部に14チーム、小学生の部に8チームが

出場。一般レースは初出場で防衛大学校所属の「ワークアウト委員会」、女子の部は東京海洋大学女子端艇部の「商船 GIRLS」、シニアレースは藤沢海洋少年団のチーム「ふじかぜ」、小学生特別レースは「横浜海洋少年団 A」が優勝した。商船高専各校の卒業生チームも出場し、熱戦を繰り広げた。